



ゆづりは

堺市立図書館だより

第7巻 第2号 (通巻24号)
 発行日 平成24年 9月10日
 編集・発行 堺市立中央図書館
 〒590-0801 堺市堺区大仙中町18-1
 電話 072(244)3811
 Fax 072(244)3321
 URL <http://www.lib-sakai.jp/>

堺っ子読書フォーラムを開催

堺っ子読書フォーラム「とどけよう！本の楽しさ、読書の喜び」を開催します。堺市では子どもの読書活動を学校・家庭・地域・図書館が協力して推進しています。子どもの読書活動の様々な取組について、学校、子育て支援センター、ボランティア団体、図書館、それぞれから実践報告をします。また、『怪談レストラン』のイラストや絵本『おはなし・くろくま』シリーズでおなじみのたかいよしかずさんをお招きして、「僕が絵本作家になった理由（わけ）」と題して講演会を行います。

たかいさんは堺市出身で、イタリア・ボローニャ国際絵本原画展で入選されたことでも有名です。講演ではすべての子どもたちに本を届けるため、作品に込めた思いも語っていただきます。

子どもの読書に関心のある方、保護者の方、子どもと本に関わる活動をしている方、子どもと日々接する保育所（園）・学校園の先生方などにもおすすめです。多くの参加をお待ちしています。



子どもたちにも大人気の『怪談レストラン』シリーズ(童心社)

平成24年度堺っ子読書フォーラム

内容：実践報告と講演会
 日時：平成24年10月28日（日）
 午後2時～5時
 場所：中文化会館（ソフィア・堺）
 定員：先着150人（無料）
 申込：10月5日（水）午前10時から
 中央図書館へ（電話または直接来館）
 主催：堺市子ども読書活動推進会議
 （堺市・堺市教育委員会）

『わたしの学び発表会』 ～北図書館～

図書館の資料を使った様々な研究や調べものをされている方々の発表会を今年も開催します。昨年は、活発な意見交換もあり、大盛況でした。今年は「和泉国一之宮」や「竹内街道と金岡（金田）のくらし」の発表が予定されています。『わたしの学び発表会』は市民のみなさんが主役の楽しい発表会です。お気軽にご参加下さい。

日付：平成24年11月17日（土）
 場所：北区役所1階 大会議室

詳しくは広報さかい11月号・図書館ホームページにて



目次

堺っ子読書フォーラムを開催	… 1
『わたしの学び発表会』 ～北図書館～	… 1
平成24年度第1回堺歴史文化市民講座 「大美野田園都市の再発見」	… 2
シリーズ堺の〇〇 堺の茶人 堺千家	… 2
地域資料関係行事のお知らせ	… 2
堺かるた いろはの「な」	… 3
この本で解決！ ～中区陶器北に注目～	… 3
司書のイチ押し！ 『クシュラの奇跡』 140冊の絵本との日々	… 4
「資料(点検)整理期間」 のお知らせ	… 4
堺市立図書館電話番号一覧	… 4

ゆづりは

とは・・・

中央図書館の正面玄関前に、堺生まれの詩人、河井醉茗氏の歌碑があります。

年ごとに
 ゆづりゆづりて 譲り葉の
 ゆづりしあとに また新しく

この歌にちなみ、年月を経て、世代を越えても、次々に新しい情報をお伝えできるように、堺市立図書館だよりに「ゆづりは」と名づけました。



平成24年度第1回堺歴史文化市民講座 「大美野田園都市の再発見」



南海高野線北野田駅を降り、東図書館が入る「アミナス北野田」の北側の道を西に向かって歩いていくと“ファウンティン通り”の看板が見え、ゆるい上り坂をさらに進むと、目の前に大きな噴水が現れます。この噴水を中心に、8本の道が放射線状に延びて町が広がっています。ヨーロッパの町並みのようですが、ここは堺市東区大美野。かつて「大美野田園都市」として開発された町です。

堺歴史文化市民講座「大美野田園都市の再発見」では、この町がいつ、なぜ、どのようにして生まれたのか、大阪市立都島第二工業高等学校教諭で工学博士の和田康由先生にご講演いただきます。



昭和6年(1931)ごろの噴水の広場



現在の噴水の広場

日時：平成24年10月14日(日)
午前10時～11時30分

場所：東文化会館研修室(アミナス北野田3階)

定員：先着40人(無料)

申込：10月3日(水)午前10時から
東図書館へ(電話または直接来館)

堺歴史文化市民講座の予定

第2回 11月23日(祝) 西図書館
テーマ「堺の粋 注染・和晒(わざらし)」

第3回 12月9日(日) 南図書館
テーマ「泉北の歴史—上神谷と小谷城の歴史—」

シリーズ 堺の〇〇

堺の茶人 堺千家

茶の湯で有名な三千家(表千家・裏千家・武者小路千家)が京千家とされる流れであるのに対し、千利休の長男である千道安(初名は紹安)の家は、堺千家と呼ばれることがありました。道安は利休の最初の妻(宝心妙樹)の子で、利休について修行していましたが、利休が宗恩を後妻に迎えると、宗恩の連れ子である少庵(京千家の祖)との関係もあってか、一時期茶道から離れます。その後、天正9年(1581)に堺の茶道界に復帰、利休の補佐役として活躍します。豊臣秀吉の茶頭にも名を連ね、大きな茶会等にも携わりました。

利休が秀吉の怒りを買って天正19年(1591)に切腹すると、道安は飛騨(現在の岐阜県北部)の金森長近にお預けとなります(阿波(現在の徳島県)に行き、千家流を伝えたという説もあります)。のちに、前田利家や徳川家康の取りなしもあって許され、道安は利休の堺の財産を相続、堺千家として利休の茶を伝えることになりました。しばらくして道安は秀吉の茶頭に復帰、その死後は九州の細川家の茶頭になったといわれています。しかし慶長12

年(1607)に道安が亡くなると、堺千家は途絶えてしまいました。

道安の茶風は、少庵が「静」の茶と評されるのに対し、「剛」の茶といわれており、利休の道統を継承するだけでなく、進取の気鋭にも富んでいました。その名前は、今でも茶道具の中に「道安風炉」や「道安黒」として残されています。

参考文献

『利休とその一族』 村井康彦著 平凡社、1987
『千道安』 斎藤史子著 鳥影社、2008
『堺の茶人たち 茶の文化の原点を考える 「CHAの文化セミナー」』 市民活動団体「堺なんや衆」/報告 市民活動団体「堺なんや衆」、2006

地域資料関係行事のお知らせ

中央図書館郷土資料展 「江戸時代の堺のまちと堺奉行」

期間：平成24年11月10日(土)～25日(日)

場所：中央図書館1階ロビー

記念講演会：平成24年11月25日(日)

午後2時から 中央図書館集会室

●詳しくは、館内ポスターやちらし、広報さかい11月号でお知らせします。

堺かるた - いろはの「な」
な やしゅう りきゅう ちゃせい
 「納屋衆の 利休は 茶聖と あおがれる」

堺の納屋衆は富裕な商人の集まりで、町の自治運営にあたっては指導的役割を果たしていました。安土桃山時代の茶人、千利休はこの納屋衆の一人でした。利休は豊臣秀吉の茶頭として仕える一方、政治上の機密にも通じ、大きな勢力をもつに至りましたが、やがて、秀吉によって切腹を命ぜられました。

現在の茶道の家元の始祖であり、後の日本文化に大きな影響を与えた利休は茶聖と称されています。その生涯は魅力的な題材のようで、野上弥生子、井上靖など著名な作家により小説化されました。山本兼一「利休にたずねよ」が直木賞に輝いたのは記憶に新しいところです。



参考文献

- 『国史大辞典』国史大辞典編集委員会 吉川弘文館
- 『むかしの堺』別所やそじ他 堺児童文化振興会
- 『秀吉と利休』野上弥生子 中央公論社
- 『本覚坊遺文』井上靖 講談社
- 『利休にたずねよ』山本兼一 PHP研究所

【利休コーナー】中央図書館の地域資料コーナーには、千利休に関連する資料を集めたコーナーがあります。本の背に黄緑（抹茶）色のシールがはってあるのが目印です。ぜひお立ち寄りください。「文化財特別公開×へうげもの ～安土・桃山時代の堺、一挙公開～」として秋季文化財公開（今年の秋 10月29日(月)～11月4日(日)の7日間）が開催されます。漫画『へうげもの』の主人公・古田織部の茶の師匠は、堺の誇る茶人・千利休です。

この本で解決！ ～中区陶器北に注目！～

中区陶器北地域が日本の須恵器（陶器）発祥の地であったことは、古くは「陶邑（すえのむら）」と呼ばれ、現在でも地名として残っていることがよく物語っています。そんな陶器北地区ですが、図書館に寄せられる質問は、須恵器のことばかりではありません。今回は平安期と南北朝～江戸期の陶器北にまつわご質問を紹介します。

造成に伴い全部つぶされてなくなったので後世への語りぐさに書き残しておく」と書いています。

Q. 「陶器城」についての資料はあるか？

A. 「陶器城」として存在したのは南北朝内乱期で、『堺市史 続編 第1巻』に「陶器城の古図」という写真が掲載されています。

また『堺市美術工芸品調査報告書 第一集（上神谷下条・陶器地区の美術工芸）』（堺市教育委員会）に「陶器城（陶器北、東陶器公園付近）は正慶二年（元弘三年・1333）に楠木正成一族に攻め落とされ…」という記述があります。

ほかに『堺市中区東陶器・福田校区ふるさと魅力資源散策マップ 2006』（中区域まちづくり考房魅力創出グループ）には、「陶器城址」の写真と説明が載っています。

なお、江戸時代の支配については『堺市陶邑（東陶器村・西陶器村）の歴史』（岡本寅一）や『西陶器校百年』に詳しく書かれています。主に小出氏が支配し、「陶器陣屋」が存在した、とあります。陶器陣屋については、『城』第45号（関西城郭研究会）に詳しい説明がなされています。

Q. 「陶器七不思議」というものが伝わっているそうだが、どんなものか？

A. 『西陶器校百年』（堺市立西陶器小学校）に「校区にまつわる行事や伝説」として「陶器七不思議」（高倉寺住職 仲村隆正氏記）が載っています。ちなみに、この高倉寺は修恵寺または大修恵山と称していましたが、この「修恵」は「陶」の和訓に由来するとされています。寺伝によると行基によって開基され、空海（弘法大師）も来寺しているとのこと（『堺市史 続編』第1巻）。

七つの不思議とは「千畳敷」「黄金塚」「梵字ヶ芝」「笹無谷」「猫坂」「舟の型」「大師井戸」で、仲村住職は「高倉寺周辺に古来から弘法大師遺跡と伝えられる七不思議があったが、ニュータウン

司書のイチ押し!

『クシュラの奇跡 140冊の絵本との日々』 ドロシー・バトラー／著 のら書店

この本は、生まれたときから身体のおちこちに障害を持つクシュラという名の女の子が、絵本と出会い、家族やまわりの人々に囲まれ、どう成長していったかを記録したものである。日本では1984年に出版され、2006年にはサイズを少し小さくした普及版が出された。初版では美しいカラーだった絵本の写真が、普及版ではすべて白黒になってしまったのが残念だが、普及版には「その後のクシュラとバトラーさん」という訳者あとがきが追加されている。

クシュラは当初、触覚や視覚の発達が未熟だったため、絵本を自分で持てず、目は向いていても反応がなく、医師たちには知能の発達も遅いと決めつけられた。しかし、クシュラの両親はそんなことに耳をかさずに、クシュラを抱きあげ、クシュラの視点が合うところまで絵本を持っていき、読んできかせた。するとちゃんとクシュラは反応し、お気に入りの絵本をみつけ、読んでもらった詩や単語を丸暗記して、同じような体験をしたときにその台詞を言うのけるまでになった。

目がはっきりと見えないうちは、背景が白く、はっきりとした輪郭で描かれているものを好み、ディック・ブルーナやロイス・レンスキーの絵本を繰り返し見ていたそうだ。幼児期には、シンプルで明快なストーリーが好きで、ジョン・バーニンガムの「ガンピーさんのふなあそび」はその好例であることも

挙げられている。3歳前のクシュラはエリック・カールの「はらぺこあおむし」を1度読み終わったあとすぐに「もう1度読んで」とせがんだという。1969年に「はらぺこあおむし」が出版されたときの衝撃は大きく、売上げも記録的であったことが記されているのも興味深い。この本であげられた絵本のほとんどが、現在でも日本で出版されているのは幸いだ。

この本に学ぶことは多い。障害を持つ子どもの成長の記録にとどまらず、絵本のそれぞれの特徴やどの時期の子どもに合っているか、という絵本の見方の勉強にもなるし、周りの大人の偏見がいかにその子どもの成長を妨げ、誤解を生むかという恐ろしさにも気付くことができる。

本は子どもと外界との接触の窓となる。特に幼かったり、障害を持つなどして、自分の体験や経験が乏しい子どもにとって、「読書」はそれらの代替となり、今後社会生活を営む上でも必要な存在であることを、この本は教えてくれる。

子どもと本の出会いは、大人が子どもに本を手渡すことから始まる。この本の表紙には、満面の笑みで絵本を抱える少女クシュラと、うしろから暖かく見守る両親の写真が使われている。このような子どもと本と大人のいい関係を私たち図書館員も築いていきたい。(O)

「資料（点検）整理期間」のお知らせ

資料の点検や配置換えのため休館します。

中図書館	9月26日(水)～28日(金)	東百舌鳥分館	10月4日(木)・5日(金)
南図書館	10月15日(月)～19日(金)	西図書館	10月22日(月)～26日(金)
堺市駅前分館	11月14日(水)・15日(木)	中央図書館	12月3日(月)～7日(金)

堺市立図書館電話番号一覧

音声応答サービス	280-0415	東図書館	235-1345	北図書館	258-6850
中央図書館	244-3811	初芝分館	286-0071	美原図書館	369-1166
くすのき号	244-3811	西図書館	271-2032	人権ふれあいセンター図書ホール	245-2534
堺市駅前分館	222-0140	南図書館	294-0123	青少年センター図書室	228-6331
中図書館	270-8140	榎分館	296-0025	ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp
東百舌鳥分館	234-9600	美木多分館	296-2111	携帯ホームページ URL	http://www.lib-sakai.jp/m/

